

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務委員会

(責任者名) 山本 達也

(役職名) 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは令和7年度に開始し、構成する科目は1年次の必修科目として位置づけられており、1年次全員が履修している。 「情報リテラシー I」及び「統計学」を1年次181名全員が修得した。
学修成果	「情報リテラシー I」について全ての学生が到達目標を達成し、単位を修得した。 成績分布としてはS:10名、A:71名、B:72名、C:28名であった。 「統計学」についても全ての学生が到達目標を達成し、単位を修得した。 成績分布としてはS:61名、A:69名、B:40名、C:11名であった。 授業評価アンケートの受講生の満足度や授業に対する意見等を集計・調査し、今後の授業運営に役立てていく。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	本プログラム受講者全員を対象に授業評価アンケートを実施しており、「内容がよく理解できるように準備されていた」や「学生の理解度に対して配慮がされていた」という項目から学生の理解度を分析し、授業改善を行っていく。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業評価アンケートで後輩等他の学生への推奨度という項目は実施していない。 「全体としてこの授業を受けられてよかった」という項目を実施しており、全学生向けにアンケート結果を公表することで、推奨度に近いものを他学生へ発信している。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	各学科専攻の必修科目としているため、令和7年度は履修率100%となっている。 今後も履修率100%を維持するため、ガイダンスにて履修について周知していく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和7年度に開始し、1年次が対象の科目で構成されているため、修了者のうち卒業生はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	今後実施予定のAIに関するセミナーで講演いただく講師や本学卒業生の意見を聴く機会卒業生へヒアリング等を実施することにより、産業界が求めるニーズや必要な知識を情報収集し、教育プログラムの改善につなげる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「統計学」では量的データの収集、分析、結果の記述および解釈に至る基礎的知識を学び、「情報リテラシーⅠ」では大学生および職業人としての基礎的素養となる情報の整理と活用、およびコンピュータを利用したICT獲得について学んでいる。さらにパソコンを用いて各種ツールや統計ソフトによる演習形式の授業も取り入れることで「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を促すような工夫をしている。また、実社会に基づくデータを用いた統計分析をおこなうことで学生の実践的な学びを促している。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学期末に授業評価アンケートを実施している。「内容がよく理解できるように準備されていた」、「教員の説明は分かりやすかった」、「学生の理解度に対して配慮がされていた」という評価項目の集計結果及び自由記述欄のコメントを分析し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となるよう改善を行っていく。また1年ごとに授業計画を見直し、最新の動向を踏まえた分析手法やAIに関するトピックを紹介する。</p>